

2005年1月

韓国学会参加&視察旅行

Asia TEFL (the Asian Association of teachers of English as a Foreign Language) の学会がソウルで開かれたのを機に、プサンの学校を視察し、教育庁を訪問しました。始めて見る韓国の発展ぶりに目を見張りましたが、それにも増し、教育熱の高さに触れ、日本の将来に危機感を強く感じてきました。



韓国では、小学生の8～9割が英語塾または英会話教室に通い、しかも、日本のように週に1回でなく、2～3回通っています。公立の小学校では、それに刺激を受け、また保護者の期待に押され、1997年より公立小学校の3年生以上で、英語の授業が始まりました。

当然、高校生にはまだその影響は出ておらず、視察した学校では、有名大学に入学する為に、夜の10時まで学校で自習していました。日本と同じで、学力は高いものの、英会話力には欠けていました。しかし、小学校教育は英会話重視で、やがては、コミュニケーション能力のある子たちが2年後には高校に入ってきます。

韓国では、必ずしもソウル大学を目指すのではなく、ハーバードやエール大学などの海外の大学を視野に入れています。頭脳流出について質問すると、教育庁のスーパーバイザーは『韓国人』はどこで暮らしても『韓国人』なので、構わないのではないかと回答が返ってきました。懐の深さと真の国際性を感じました。日本人がんばれ！

あぜりあ代表 勝山ひとみ